

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	観光遊園地（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少状態が続き、団体や家族連れでの来場が増加している。
	◎	設計事務所（所長）	それ以外	・食事付きの会合が急速に増加している。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・ほとんどの業種でリベンジ消費といえるほどの大きな動きにはつながってはいないが、以前と比べて人通りが増えたと実感している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の激減により、週末の観光客が増加しており、徐々に回復基調にある。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・平日は人通りが少なく閑散としている場所もあるが、新型コロナウイルス新規感染者数が減少したことにより、週末は夜の繁華街に少しずつ人が出てきている。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の沈静化により、外商売上が好調であり、前年同月を上回っている。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少した今月中旬以降は、売上が回復している。
	○	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・当県のまん延防止等重点措置の解除に伴い、企業によるマスクアプローチが再開したことで、客の心理が良い方向に変化している。
	○	コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・客足が戻ってきたとはいえないが、Go To Eatキャンペーンの一部再開に伴うチケット売上については順調である。たばこ増税の影響も余り感じない。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・景気が少し回復傾向にあり、来客数が増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数の増加に加え、客単価が高くなり、業績は回復した。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しており、以前の水準までは回復していないものの、少しずつ来客数が増加している。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、人が動き出している。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が収束傾向にあり、客足が戻ってきている。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、個人の観光客は増加傾向にある。ただし団体客や法人客が戻ってないため回復基調は弱い。
	○	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除され、新規受注が増加しており、ビジネス需要も動き出している。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・1日の客単価が10%向上した。また、週末は人出が増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、お遍路の仕事も増加している。週末に外出する人が増えてきており、売上も増加傾向にある。
	○	通信会社（営業部長）	お客様の様子	・半導体不足で納入数が減っている分、販売が伸び切っていないが、購買意欲が衰えているわけではない。
	○	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・ワクチンの2回接種により新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少しており、徐々に消費意欲が戻ってきている。レジャーや公営ギャンブルにも人が戻りつつあるが、コロナ禍前の水準までは回復しておらず、引き続きネット経由での売上が増加傾向にある。

	□	商店街（代表者）	それ以外	・地方を取り巻く状況に変化は感じられない。当地では自治体の街づくりに対する方向性が定まっていないため、駅前の核店舗の再生が進んでおらず、当面のめども立っていない。自治体と民間企業が目指す方向性を共に有し、経済面においても協調し合わなければ容易に進まない。
	□	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が激減し、飲食店への納品が微増したが、以前の水準までは戻っていない。
	□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除された後から若干伸びが鈍くなってきている。一方、各種食品の連続的な値上げにより、客単価が上昇しているため、売上は減少していない。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数が回復していない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年並みの売上で推移しているが、新型コロナウイルス発生前と比べればまだ客足は鈍く、アパレルの需要も回復していない。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・下見に訪れる客が多い一方、季節商材が売上をけん引しており、全体としては現状を維持している。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今後新車入庫台数が徐々に改善すれば、今後通常の生産台数に戻る時期は近い。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・半導体不足による生産の遅れが影響している部分もあるが、受注自体は前年と比べ余り変化がない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・売上に変化がない。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているが、客の動きは余り変わらない。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・飲食業界にてリベンジ消費が加速しており、内食は減少している。
	▲	スーパー（財務担当）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの感染が沈静化しており、大型商業施設や外食産業に客が流れつつある。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・週末は客の活動範囲が広がっており、店舗では来客数が10%程度減少している。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比べ売上が減少しており、11月では過去最低水準になっている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・県内の新型コロナウイルスの新規感染者数は収束傾向にあり、人の動きが増えてきたが、当店の来客数は減少している。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているが、状況は改善しておらず、来客数も減少している。
企業動向関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・第6波の到来を恐れて思い切った仕入れをする小売店は依然として少ないものの、観光地や一般小売店に人出が増えたことで受注が大幅に増加している。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・資材価格の高騰と供給不安があり、販売価格への転化を急がなければならない状態ではあるが、受注量が新型コロナウイルス発生前以上に改善した。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・主力造船関連の受注価格が若干上昇した。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国及び地方公共団体の公共事業の発注並びに受注が堅調であることがベースとなり、景気は底堅い状況が継続している。加えて、新型コロナウイルス新規感染者数の減少が継続していることで、出張や営業活動を始め、地域経済団体等のセミナーや会議などの開催が増えてきており、精神的な景況感の好転が大きい。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上高は通常の半分にも満たない状況であるが、感染症に対する不安感が減少したため、人の動きが出てきている。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先である中小企業経営者によれば、新型コロナウイルスの感染状況の全国的な収束に伴い、消費者の自粛傾向が緩和され、客足が増加している。
	○	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上の状況や取引数が増加している。

	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の販売取引は、低迷が続いている。要因は何なのか不明であるが、日配品の値上げラッシュや燃油価格の高騰等の影響により、量販店が青果物の売価を故意に抑えていると考えている。需要と供給により価格が決定されていない状況にある。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各国の経済対策により、市場マインドは上向きつつあるものの、地域的なばらつきが大きく、全体として本格的な需要回復には至っていない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共と民間共に売上が少ない状況が続いている。
	□	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・国内の新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあり、行動規制が緩和されたことで人流も戻りつつある。原材料の調達を感染が収束していない東アジアや東南アジアに依存する第二次産業関連から第三次産業に至る物流は依然として低調で推移しており、依然として取扱物量はコロナ禍と変わらない状況が続いている。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるものの、社外イベント等への参加自粛はおおむね継続している。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しており、まん延防止等重点措置も解除されたが、市場の動きは鈍い。
	□	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は非常に少なくなっているが、客先の販売促進策は慎重であり、引き続き販売促進経費の削減を継続している企業が多いため、現状は余り変わらない。
	▲	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・一部企業の海外向けの出荷量が増加している一方、依然として国内向けの出荷を行っている企業の動きは低調である。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少しており、飲食業界では利用条件が緩和され、経済が動き出している。観光客も増加傾向にあり、流通業界ではリベンジ消費と呼ばれる消費の回復現象が起こっている。
	○	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・依然として人材確保は難しい状況にはあるが、県内の周辺企業では求人数が業種問わず増加傾向にあり、景気はやや良くなっている。
	○	新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、広告業界ではイベント活動が再開される等、景気は上昇傾向である。
	○	職業安定所（職員）	それ以外	・高校生の就職内定率が高い水準にある。
	○	職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人数や新規求人倍率が上昇している。
	○	学校 [大学]（就職担当）	採用者数の動き	・学生の内定状況は、前月に引き続き、前年度と同じ高い水準を維持している。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・新型コロナウイルス発生前と比べ変化はない。
	▲	—	—	—
	×	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・サービス業における人材派遣の依頼は増加しているが、求職者とマッチングしない状況が継続している。